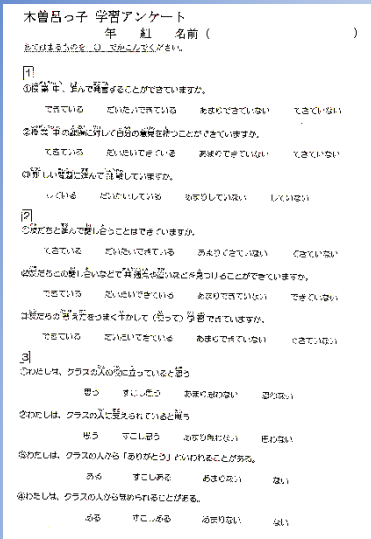


# 環境・調査研究部

## 本年度の取り組み

### ・児童の実態調査アンケートの実施



### ・階段掲示の作成（本校児童の苦手意識をもつ分野への対策や意欲向上の両面から考えて。）



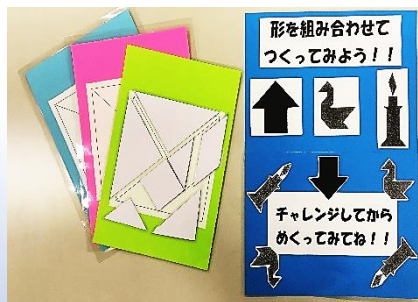
北・南校舎階段へ掲示。



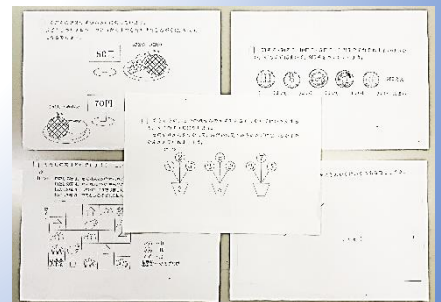
### ・来年度に向けて、算数体験コーナー作成。（学習への意欲面の向上にむけて。）



低学年：時刻と時間



中学年：タングラム



高学年：発展問題スタンプラリー

## 成果

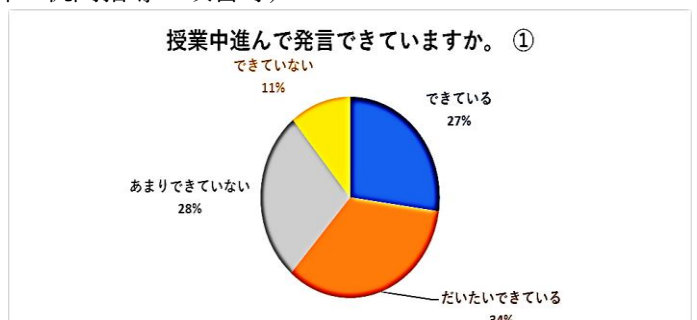
・実態調査アンケートで児童の実態を捉えることができた。

アンケートの結果を受けて、本校の児童の特徴として特に顕著なのは…

### 【仮説1に関する調査項目について】

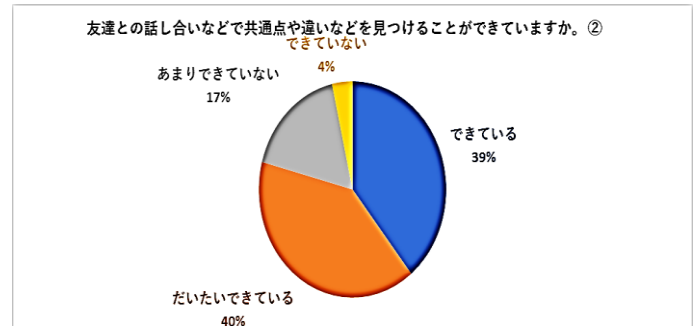
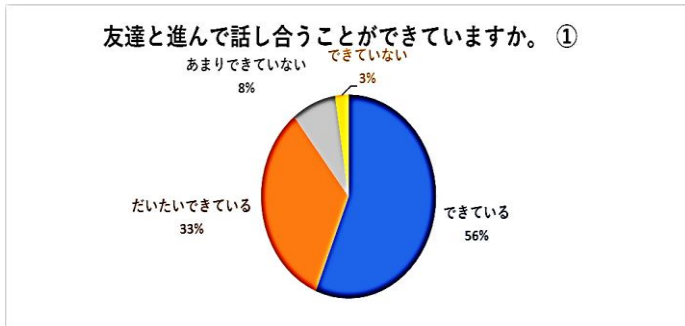
・『授業中進んで発言できているか』の項目については、約6割が“できている・だいたいできている”と回答。また、その回答の1～6年での減少傾向が顕著。発言することに自信が持てるように具体的な取り組みを進めていかなければならない。（ペアやグループ学習の研究、教師の机間指導の改善等）

①	1	2	3	4	5	6
できている	64	52	46	37	33	28
だいたいできている	58	65	52	54	61	37
あまりできていない	29	25	43	61	49	56
できていない	5	7	13	17	26	37



### 【仮説 2 に関する調査項目について】

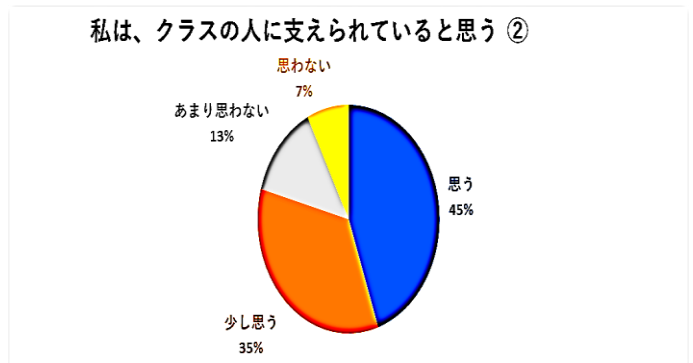
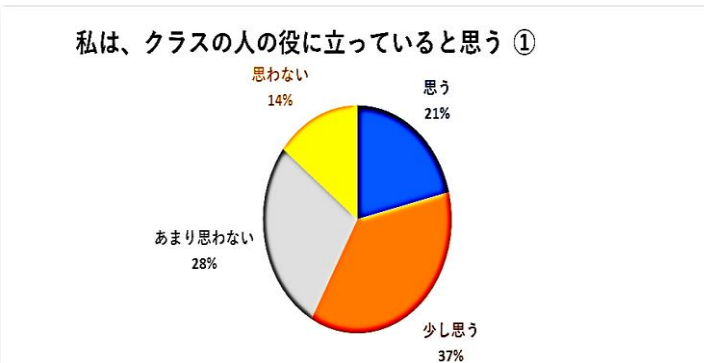
・約 9 割の児童が進んで話し合えることができていると回答。特に“できている”と回答する割合が大きい。しかし、『話し合いの中で共通点や違いなどを見つけることができているか』という項目では“できている”と回答する児童が大きく減少している。このことから、児童は話し合うことについては好きだが、話し合いから答えを導くことなどについては、苦手意識があると考えられる。授業研究部等との連携を通して、来年度に向けて具体的な改善方法や手立てを検討していく必要がある。



### 【自己有用感について】

・本校研究テーマ『子どもの心が動き出し、お互いの考えや思いを尊重し、深い学びを生み出す児童の育成』において主体性や学び合いの観点から、自己有用感に関する項目を調査。

クラスの人の役に立っていると思っている児童は、約 6 割。しかし、クラスの人に支えられていると回答した児童は約 8 割。助けられているという意識は高いが自分自身が助けているという意識は低いと言える。「役に立っている」「必要とされている」などの意識を高め研究テーマに沿った円滑な学習活動を展開できる学級経営につなげていくことも必要。



- ・研究部内を『アンケート部』と『掲示物部』に分け、作業を分担したことにより、研修時間内に効率的な活動が行えた。
- ・算数体験コーナーの作成について、来年度 1 学期分の製作物が低・中・高それぞれの学年で完了。(来年度 2・3 学期分の内容を決定済み。)
- ・階段掲示の内容及び作成→掲示まで完了。

## 課題

- ・アンケート内容の再検討。(低学年に対する質問項目のわかりやすさを重視。)